



「下瀬谷小・日向山小」小規模校 再編検討委員会 NEWS

「第 3 号」
平成20年7月23日
発行：検討委員会事務局

【下瀬谷小及び日向山小の施設見学の実施】
*平成20年7月5日(土)13時30分から

【第3回再編検討委員会 開催】
*平成20年7月5日(土)16時30分から
日向山小学校「市民図書室」

「次 第」

- 1 開会
- 2 第2回検討委員会の内容説明
- 3 議題
 - (1) 統合に関する基本的な考え方について
 - (2) 各検討項目の検討順序について
 - (3) 両校の施設見学を終えて
 - (4) 統合校の設置場所について
 - (5) 統合校の再編時期について
- 4 その他
 - (1) 次回の日程について
- 5 閉会



～ 決 定 事 項 ～

※再編統合の再編時期について

「第3回」再編検討委員会において、下瀬谷小と日向山小の「再編時期」について事務局より再編時期(案)の説明があり、検討委員会として「平成22年4月」とすることを全委員の了承のもと決定しました。

※統合に関する基本的な考え方について……………議題(1)

事務局より基本的な考え方(案)について説明があり、(案)の内容について了承されました。

※各検討項目の検討順序について……………議題(2)

林副委員長より「委員長・副委員長提案」の説明があり、

- ★「通学安全・通学区域」について十分な時間を取りながら議論を進めていく
- ★「新校名」については、「通学安全・通学区域」の議論と同時に議題の中に入れながら進めていく
- ★その後「統合校の特色づくり」と「中学校の通学区域」を議論していく

以上3点を重点としながら①統合校の設置場所、②統合校の再編時期、③統合校の通学区域や通学安全、④統合校の校名、⑤統合校の特色づくり、⑥中学校の区域の順番で検討を進めていくことに決定しました。

※次回の議題

- ①統合校の設置場所について ②通学区域・通学安全について ③新校名について

※次回の日程について

- ◆8月26日(火)19:00～下瀬谷小「コミュニティスクール」



議題

(1) 統合に関する基本的な考え方について<事務局より(案)の説明>

下瀬谷小学校・日向山小学校の再編統合の考え方(案)

【基本的なことの確認】

一方の学校が残り、他方の学校が廃止されるということではなく、両校をいったん閉校し、新たな学校を誕生させるという考え方で統合を検討することとします。また、新たな学校のあり方等については、両校が対等な立場で検討することとします。

1 統合校の設置場所

通学距離や通学時間、通学安全性、施設内容などの観点から検討していくこととします。

2 統合校の再編時期

再編統合の実施時期は、検討委員会における議論を踏まえながら、今後検討することとしますが、両校の状況を考慮し、出来る限り早期となるよう検討することとします。

3 統合校の通学区域や通学安全

下瀬谷小学校及び日向山小学校は、基本的には、両校の通学区域を合わせた学区としますが、地域の住民の意思を十分確認しながら検討することとします。※(現在設定している特別調整通学区域も含める)

4 統合校の校名

新たな学校を誕生させることから、学校の名称は白紙から検討することとします。

5 統合校の特色づくり

再編を契機に「下瀬谷小・日向山小の地区」にふさわしい教育の特色について検討をおこない、それを踏まえて両校長が開校年度までに、新校の教育方針を協議し決定することとします。

6 中学校の区域

中学校については、南瀬谷中学校・下瀬谷中学校共に受け入れ上支障が無いため、地域の意向を踏まえながら弾力的に検討することとします。

～主なご意見・ご質問～

●**質問:**配付資料の一番下にある「両校が対等」と書いてあるが、現在下瀬谷小は適正規模校となっている。どのような観点で述べてあるのか伺いたい。

◆**回答(事務局):**どちらかが残ってどちらかが無くなるということではなく、両校を一旦閉じて、新しい学校を両校で創っていくということです。吸収合併ではなく、お互い対等な立場で新しい歴史を築いていくということです。

●**質問:**3番の最後の「特別調整通学区域」について詳しく説明願いたい。

◆**回答(事務局):**現在の下瀬谷小の学区内の児童は入学時に、隣接する瀬谷第二小も選択できる地域が一部あります。

今後、再編統合をするにあたって現在設定されている「特別調整通学区域」の扱いについても、存続あるいは廃止といった内容について本検討委員会でご議論いただきたいと考えております。

●**質問:**5番の下瀬谷小・日向山小の地区にふさわしい教育の特色について検討するとあるが、検討はこの検討委員会で行うのか。

◆**回答(事務局):**本検討委員会で新しい学校にはどのような特色ある教育がふさわしいのかをご議論いただきます。これまでの例では、旧学校が「コンピュータ教育」に力を入れていたことから、統合後も引き続き行っていく、あるいは中学校が近くに隣接していることから、「小中連携教育」に力を入れていく等が上げられます。

●**質問:**学校周辺には市街化調整区域があるが、金額に折り合いが付けば等価交換をして、そこに学校を建てることはないのか。

◆**回答(事務局):**教育委員会の再編統合の考え方は、小規模校あるいは今後小規模校になるであろう学校と統合を行うことによって適正規模校とし、これまで以上に良い教育環境を確保していくということです。第三の場所に学校を建てることは考えておりません。あくまでも既存の校舎を活用していくということです。

●**質問:**6番の中学校の区域のところで、地域の意向とはどのような地域なのか。

◆**回答(事務局):**本検討委員会で検討をしていただき、その中で学区変更の案が出てきたときには、改めて自治会と協議を行いながら進めていくということです。

●**質問:**この検討委員会で、どちらの学校を選ぶかという議論自体が無理な話である。それぞれ自分の関係する学校を残したいと思っていることは当たり前のこと。教育委員会で具体的な案を出さないといつまでも決まることはないと思う。

◆**回答(事務局):**短時間で結論を出すことは難しいことであると私どもも十分認識しています。必要なデータは事務局で用意いたしますので、委員の皆様で議論し、検討委員会として決定をしていただきますようお願いいたします。

(2)各検討項目の検討順序について <林副委員長より提案>

<正副委員長で協議した内容について説明>

- ★「通学安全・通学区域」について十分な時間を取りながら議論を進めていく。
- ★「新校名」については、「通学安全・通学区域」の議論と同時に議題の中に入れながら進めていく。
- ★その後「統合校の特色づくり」と「中学校の通学区域」を議論していく。

(3)両校の施設見学を終えて

H20年度「下瀬谷小」及び「日向山小」の施設状況

学校名	創立年月日	敷地				校舎面積(m ²)	構造・階数	H20年度学級数	保有教室			耐震補強
		敷地面積(m ²)	校舎部分(m ²)	グランド(m ²)	その他(m ²)				普通教室	個別支援	特別教室	
下瀬谷小	S50.9.1	9,085	4,908	2,972	1,205	4,351	鉄筋4F	13	16	2	6	済
日向山小	S55.9.1	11,546	7,021	3,235	1,290	6,436	鉄筋4F	6	11	2	8	済

～主なご意見・ご質問～

●**質問:**下瀬谷小の近くの「相沢川」に設置されている水量を測る機械のようなものは何か。また、大雨の時はどのような状態になるのか。

◆**回答(事務局):**横浜市ホームページの「防災情報」に「水防災情報」という項目があります。そこに市内の主要河川の水位状況をリアルタイムに映像として映しており、「相沢川」も見ることができるようになっています。そのためのカメラ等の機械です。

◆**回答(委員):**境川より川幅が狭いことから危険性はまったく無いとは言えませんが、これまで大雨による氾濫は、ずいぶん昔に1度あった程度で、その後「護岸整備」も終了しており問題はないと考えます。

◆**回答(瀬谷土木事務所):**相沢川の上流は、大雨が降った時に雨を溜める「調整池(ちょうせいち)」ができており、昔のような水位の上昇は無いと考えます。

両校の施設見学を終えての感想

◎意見:下瀬谷小学校の道路側は生け垣だけでフェンスが無いようだが、防犯上問題はないのかと感じた。

◎意見:下瀬谷小学校は思っていたより校舎内がきれいだった。また地域防災用の薬品庫が設置されており、良いことだと感じた。

◎意見:日向山小学校は学校内が、ホテルのような感じで印象が良かった。また近代的な環境だと感じた。

◎意見:日向山小学校の校舎の外壁にひび割れ部分が多いと感じた。

◎意見:日向山小学校のパソコンルームは、コンピュータの台数が充実していた。

◎意見:両校の施設状況が書かれた配付資料を見ると、学校規模は日向山小学校のほうが大きいことがわかる。

◎意見:日向山小学校の環境面の良いところと下瀬谷小学校の環境面の良いところを一緒にすることは無理なので環境面では争えないと思う。施設面では、これから統合校への施設改修等が行われるとのことなので、施設面での比較は度外視するべきだと思う。

(4) 統合校の設置場所について<事務局より両校施設について説明>

平成19年度「義務教育人口推計」

【下瀬谷小学校】 *個別支援含まず								【日向山小学校】 *個別支援含まず								【下瀬谷小+日向山小】 *個別支援含まず							
	19年	20年	21年	22年	23年	24年	25年		19年	20年	21年	22年	23年	24年	25年		19年	20年	21年	22年	23年	24年	25年
児童数	367	337	352	316	290	259	247	児童数	135	127	126	131	117	116	110	児童数	502	464	478	447	407	375	357
学級数	13	12	12	11	10	9	8	学級数	6	6	6	6	6	6	6	学級数	15	14	14	13	12	12	12

～主なご意見・ご質問～

●質問:仮に設置場所が日向山小となった場合、下瀬谷小の通学区域で北側の児童は、日向山小へ通学する距離よりも瀬谷第二小あるいは南瀬谷小へ通うほうが近いという状況がでてくる。統合によって下瀬谷小の児童が分裂する現象がおきる可能性があるが、事務局としてどのように考えているのか伺いたい。

◆回答(事務局):統合しても小規模校の解消にはならない場合は、統合した意味がないこととなります。そのようなことも含めて検討していただきたいと思っております。

●質問:統合によって統合校に新たな施設の増築はしないとのことだが、教育環境を良くしていく観点から何らかの対策は必要と考える。事務局の考え方を教えていただきたい。

◆回答(事務局):あくまでも既存の施設を活用するということです。教室を増やすための増築は考えておりません。

●質問:どちらの学校を設置場所にしても、通学距離は2km以内なのか。

◆回答(事務局):ルートにより多少の違いはありますが、概ね2km以内と考えております。時間についても「登り下り」あるいは「大人と子ども」で違いはありますが問題はないと考えます。

●質問:日向山小の市民図書室や現在の特別教室を内部改修すれば、統合後の教室数を確保できるのではないかとと思うがどうか。

◆回答(庄子校長):現在の特別教室や個別支援教室は、十分な教育活動を進めていくために必要な教室であり、普通教室に転用すると、円滑な教育活動が困難な状況になってしまいます。

●質問:統合校の改修内容を詳しく説明していただきたい。

◆回答(事務局):設置場所が決まっていない段階で具体的な改修内容は検討していません。設置場所が決定し新校の教育方針や特色づくり等が決まったところで、それに合った改修の検討を進めていくこととなります。

●質問:事務局に伺いたい。設置場所をすでに決めていないということはないのか。まったく白紙ということか。

◆回答(事務局):事務局としては、本検討委員会で十分にご議論を重ねた上で、決定していただきたいと考えています。

◎意見:日向山小の保護者として、設置場所を決めるにあたっては学校周辺の環境や通学路等広い視野に立って考えていただきたい。

日向山小の保護者としては諸手を挙げて統合賛成ではありませんが、前回の検討委員会において統合することが決定しましたので、どちらの学校を使用するにしても、下瀬谷小のスローガンでもあります「未来の子どもたちのために」統合しましょうとのことですので、設置場所を決めるにあたっては、検討委員会で決定することが難しいと思っておりますので、事務局から提案をしていただきたいと思っております。

◎意見:教育委員会はこれまで、他地区で統合に携わってきた経緯があるので、どちらの学校が設置場所としてふさわしいかを判断できると思っております。この学校にしてほしいとは言えないと思うが、参考意見として我々に聞かせていただきたい。我々では判断がつきにくい面が多々あるので是非お願いしたい。

【網代委員長】

委員長としては教育委員会から言われて決定するよりも、委員の皆様が十分にご議論を重ねながら、そして悩み苦しみながら、熱心に考えた末に決めていくべきではないかと考えます。
決定にあたっては、委員一人ひとりに責任があることとなりますが、「現在の子どもたちそして将来の子どもたちのために良い学校を創っていこう」との思いで決断するわけですので、責任を果たすことになるのではないかと考えます。

【林副委員長】

設置場所を決定するにあたっては、客観的に判断するべきと考えます。児童数の多い方が少ない方に行くというのは常識的に不自然ではないかと思えます。
日向山小は、下瀬谷小が児童の受入困難となったことから分離新設された学校であるため、親校に戻る事が自然ではないかと思えます。
しかし、どちらの学校を活用するかは両校の保護者の代表あるいは自治会関係者の中では結論は出せないと思えます。また事務局としても言えないと思えます。
したがって、客観的な観点から決定していくべきだと思います。

【馬場副委員長】

現在、下瀬谷小は適正規模校で日向山小は小規模校であり、日向山小の保護者並びに地域としても心苦しいところです。
先ほど日向山小の委員の方から、設置場所の決定について「事務局から提案してほしい」という意見がありましたが切実なところからの発言ではないかと思えます。事務局から何らかの参考意見や提案等があれば有り難いと思えます。

◆**回答(事務局):** 今後の進め方については正副委員長と相談させていただきます。設置場所の決定については苦渋の決断だと思いますが、「だからこそ新しい学校を最高に良いものにしよう」との思いにつなげていただけるものと考えます。
事務局が“こちらの学校にしましょう”と決めていくことはありませんので、ご理解いただきたいと思えます。

【網代委員長】

さまざまな「ご質問やご意見」をいただきましたが、本日設置場所を決定するというではありませんので、先ほどまでに出示された多くの「ご質問やご意見」並びに両校の施設見学の内容を十分ご理解いただきまして、各団体に持ち帰ってお話し合いをしていただき、次回ご意見をいただければと思います。

(5) 統合校の再編時期について <事務局より提案>

- 他の地域の統合事例からすると、統合を決定してから概ね1年から1年半後に統合している。下瀬谷小・日向山小に照らし合わせてみると、平成22年4月からということになる。
- 平成21年4月からでも可能だと思うが、子どもたちが交流をする期間が短くなってしまい、開校までの準備があわただしくなってしまう。また、開校前に新校の整備着手が出来ない。
- 平成23年4月からにすると、交流に2年半と逆に間延びしてしまう。
従いまして、平成22年4月を再編時期とすることが望ましいと考えます。

～主なご意見・ご質問～

●**質問:** 再編時期が一度決まれば、その後に変更をすることはしないのか。仮に平成22年4月と決めて、それまでに通学安全の確保ができなかった場合、開校の時期をずらすことはあり得るのか。

◆**回答(事務局):** 通学安全の確保については大変重要なことであると認識しております。ただ何をもって安全の確保ということになると、なかなか難しいのが現状だと思います。実際に通学が始まった中で、危険箇所が出てくればそこで対策を講じることになります。学校が統合されるまで出来る限りの対策を行っていきますので、それに伴っての再編時期の変更はいたしません。

◎**意見:** 逆に再編時期が決まっていたほうがその時期に向けて、改善箇所に関わる関係部局・部署との調整を進めることができるし、予算の確保も出来ると思うので、早い段階で決めた方が良いのではないかと思います。

委員の交代について

今回の検討委員会より板橋 茂「グリーンハイムひなた山自治会長」から田原 俊一「グリーンハイムひなた山自治会副会長」に交代することになりました。

【次回「第4回」再編検討委員会の日程】

★平成20年8月26日(火) 19時から 下瀬谷小学校「コミュニティスクール」

「下瀬谷小・日向山小」小規模校再編検討委員会の経過、横浜市の基本方針等はホームページでもご覧いただけます

・基本方針など <http://www.city.yokohama.jp/me/kyoiku/gakku/gakku.html>

・「下瀬谷小・日向山小」小規模校再編検討委員会

<http://www.city.yokohama.jp/me/kyoiku/gakku/kadaikibo/index4.html>



「下瀬谷小・日向山小」小規模校再編検討委員会は、常に皆さまからのご意見をいただいております。
FAXかEメールにて、事務局までご連絡ください。

* 検討委員会事務局 *

横浜市教育委員会事務局学校計画課

FAX : 045-651-1417 / Eメール : ky-seya@city.yokohama.jp / TEL : 045-671-3253

